

商学部における特色ある学部教育の補助「見学調査」 報告書

テーマ	戦争の記憶				
科目名	ベーシック演習Ⅰ				
担当教員	小田 悠生				
調査先	昭和館、しょうけい館、靖国神社、千鳥ヶ淵戦没者墓苑				
調査日	2025年6月28日(土)				
参加学生数	1年生	16名	2年生	名	3年生 名 4年生 名

調査の趣旨（目的）

本ベーシック演習では、歴史の記憶、史跡や遺産とツーリズムについて学んでいる。アジア太平洋戦争終結80年にあたる今年は、戦争の記憶に焦点を合わせており、夏学期は日米の戦争観や歴史の記憶の違いについて博物館等の。その一環として、千代田区九段下界限に点在する第二次世界大戦期に関する施設、昭和館（厚生労働省）、しょうけい館（厚生労働省）、千鳥ヶ淵戦没者墓苑（厚生労働省・環境省）を訪れ、戦争の記憶の継承について考察することを目的とした。

調査結果

本見学調査は九段下駅を出発点とし、まず幕末の古地図、明治期以降の地図をさまざまなアプリで重ね合わせながら、九段下エリアの歴史的変遷を確認した。最初の訪問地である昭和館は、幕末には「蕃書調所」（洋学の研究機関）が置かれていた地に立つ。ゼミの事前学習では、1998年に「昭和館」が開館するまでの経緯を輪読を通じて学んでいる。本館の常設展の構成は1930年代から1945年まで、終戦から1960年代頃の日本本土（特に東京）の生活に分けられる。特に「銃後」の生活一空襲被害や配給制度、疎開生活の再現展示ーを同館が所蔵する資料に加えて、体験型展示で伝える。同館は6万点以上の資料を所蔵しており、常設展で見られるのはそのごく一部であるが、所蔵品のデジタルアーカイブ化が進められており、自宅からも閲覧できるような取り組みがされている。つづいて、「しょうけい館」（戦傷病者史料館）を訪れた。昭和館が国内の生活に重点を置いているのに対して、しょうけい館は、徴兵検査から出征、受傷、野戦病院、戦後のリハビリや国の支援の欠如による生活難まで、戦傷病者たちの経験に焦点を合わせている。戦場での治療の様子ジオラマや、義手・義足・義眼の展示など、過酷な経験をさまざまな形で伝えようとする展示内容である。漫画家水木しげる氏の戦争体験についての特別展も開催中であり、ラバウルでの負傷、戦後の漫画家としての歩みや、戦争体験の作品への影響などを、インタビュー動画や漫画資料で伝えていた。なお、同館では、本学の「法と正義の資料館」で開催中の「森 重昭と被爆米兵調査ー戦争が終わるとのこと」についても案内されており、同館への訪問者が歴史を語り継ぐための本学の取り組みについても知る・足を運ぶことが期待される。最後に、靖国神社と千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪れ、戦没者の追悼や慰霊のあり方を考えるとともに、現在もつづく遺骨収集事業について学んだ。

